テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

# FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

## ラノシア編

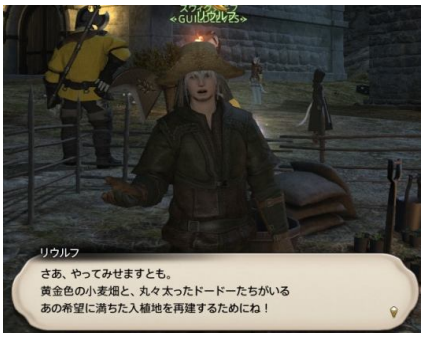
### 西ラノシア

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

# 開拓者リウルフの発起

リウルフ ： 実はこのあたりのファットドードーは、かつて生前の父が飼っていた家畜なんです。
それが逃げ出し、野生化して増えてしまいました。
父が健在だったころの入植地を目指すからには、ドードーの飼育にも挑戦しようと思います。
そのために、あなたの力をお貸しください。
ドードー営巣地には、いくつもの「ドードーの巣」があります。この巣を探り、「ドードーの有精卵」を3個取ってきてください。
まずは、そこから始めてみようと思います。
ただし、卵を取るときは、十分お気をつけください。親ドードーに気づかれでもしたら、襲われてしまうやもしれませんから。

リウルフ ： 「ドードーの有精卵」が3個もあれば繁殖を試してみるには十分です。飼育の経験を積むのが、今の目的ですから。
……実に見事な卵です。あなたにお任せしてよかった。凶暴なドードーを、大人しい家畜にするには、
どうしても卵から育てる必要があるんです。
幼鳥のうちに、毒のブレスを作る「毒腺」という器官を切除する必要があるものですから。ぜんぶ父の受け売りですけどね。
さあ、やってみせますとも。黄金色の小麦畑と、丸々太ったドードーたちがいるあの希望に満ちた入植地を再建するためにね！




# 黒渦団新兵、発奮す

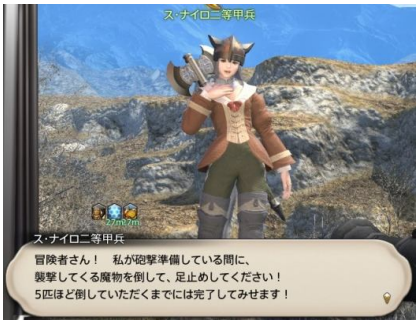
ス・ナイロニ等甲兵 ： て、敵襲だ……魔物だ……どどど、どうしよう！？　ここはリムサ・ロミンサの貿易拠点だ……。
魔物に襲われたらイチダイジだぞ！
そうか、このカノン砲で吹っ飛ばせば！　ああ、でも砲撃準備に時間がかかっちゃうか……。
いや、念願の「黒渦団」に入団できたんだ。ここでいいところを見せて、認めてもらわないと！
そ、そこの冒険者さん！　私が砲撃準備している間に、襲撃してくる魔物を倒して、足止めしてきてください！
5匹ほど倒していただくまでには完了してみせます！

ス・ナイロニ等甲兵 ： 魔物を倒してきていただけたんですね！　ありがとうございます！　こちらもカノン砲の準備が整ったところです！
……え？　魔物はエールポートを襲おうとしていたわけじゃない？　もしかして、放っておいてもいい魔物……？
なんだ、よかった……けど……　……ああ、また空回りしちゃった。砲弾と火薬を取りだして、掃除しないとなぁ……。

# 黒渦団新兵、焦燥す

ス・ナイロ二等甲兵 ： 独断でカノン砲を使おうとした件で、上官に怒られ、これ以上やると減給だと警告されてしまいました……。
でも見てください！　今度こそ、魔物がここを襲撃しようとしているんです！　次こそは、このカノン砲で沈めてやりますとも！
早く認めてもらって、エラくならなければ……。こうなったら、成果をもって挽回するしかありません！
冒険者さん！　私が砲撃準備している間に、襲撃してくる魔物を倒して、足止めしてください！
5匹ほど倒していただくまでには完了してみせます！

ス・ナイロ二等甲兵 ： 魔物を倒していただいて、ありがとうございます！　こちらもカノン砲の準備が整ったところです。
よーし、今度こそドカーンと……。
……え？　魔物はエールポートを襲おうとしていたわけじゃない？　もしかして、また放っておいてもいい魔物……？
ああ、また空回りしちゃった……。何でいつもこうなんだろう……。
……このエールポートでは、酒税が優遇されてるんです。だから、エール取引が盛んなわけで、
そうすると、ついついグビグビと……。
実は最近、遠くを見ようとすると目がかすむのです。最初はカノン砲の取扱説明書の見すぎかと思ったんですが、
単なるエールの飲みすぎのように思えてきました……。



# 黒渦団新兵、落胆す

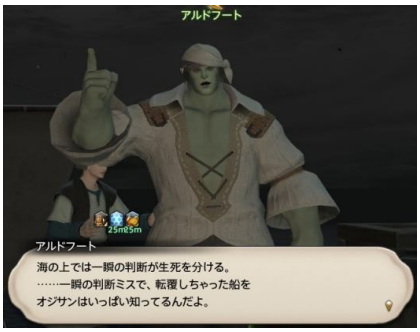
ス・ナイロ二等甲兵 ： ぼ、冒険者さん……。この書簡を「キャンプ・スカルバレー」の「ファルクブリダ中甲佐」に届けていただけませんか？
今回の一連の報告書です。とてもじゃないですが、自分で届けに行けません……。どうか、よろしくお願いします。
ああ、減給かなぁ……。減給……ううん、除隊かもなぁ……。やる気が空回りするの、どうにかならないかなぁ……。

ファルクブリダ中甲佐 ： 冒険者か。今日は何の用かな？
……ス・ナイロ二等甲兵からの定期報告書か。奴め、このような重要なものを冒険者に届けさせるとは。
……ふむ、嘘偽りなく、よく書けてはいる。その点では評価できるのだが……　肝心の仕事ぶりがこれでは、なかなか厳しいな。
まったく、足元を見ずに、先のことを考えすぎなのだ。おのれの任務を着実にこなし続けてこそ、実力も実績も備わるというのに。
奴には、少し時間が必要そうだな。今回は減給にして、反省してもらうとしよう。

# コウモリの教え

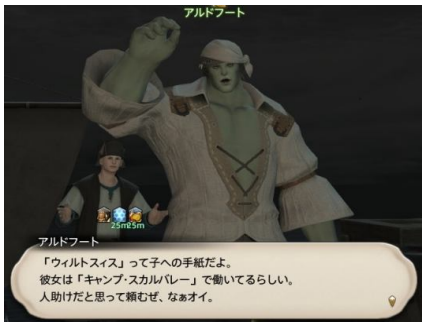
アルドフート ： お前さん、冒険者だろ？　ちょっと「ダスクバット」を狩ってだな、「ダスクバットの翼」を5枚ほど届けてくれないか？
なぁ、いいだろ？　オジサンにとっちゃ、そいつはお守りなんだよ。人助けだと思ってさぁ、頼むぜ……なぁ？

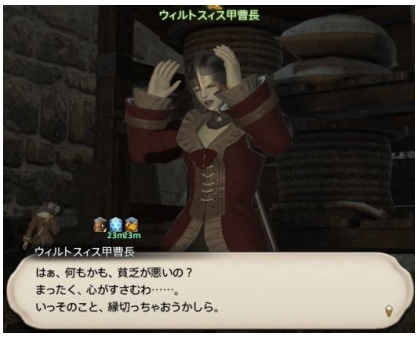
アルドフート ： どうだい？　オジサンが頼んでいたもの、手に入ったかい？
……あぁ、これだこれだ。ありがとな、子猫ちゃん。
コウモリってのはさぁ、鳥でもなく獣でもないんだよ。だから、どっちつかずな半端者みたいに
思われがちなんだけど、実は違うんだよねぇ。
臨機応変、状況に応じてどっちにでも豹変できるんだ。オジサンにとっちゃね……　その判断力と決断力ってのは見習うべきものなのさ。
ここの近海には「幻影諸島」があるから、岩礁が多い。岩礁に船がハマるのを防ぐために、灯台もあるんだけど、
肝心のシリウス大灯台が故障してて、灯りが少ないんだよ。
海の上では一瞬の判断が生死を分ける。……一瞬の判断ミスで、転覆しちゃった船をオジサンはいっぱい知ってるんだよ。




# 母からの手紙

アルドフート ： お前さん、ひとつ頼まれてくれないかな？　オジサンは恥ずかしながら、陸の上は不案内でさ。
代わりに、届け物をしてほしいんだよ。
前に、オジサンが名前もなき島へ寄港したとき、ある人から、愛娘に渡してくれと託されたものがあるんだ。涙ながらにね。
「ウィルトスィス」って子への手紙だよ。彼女は「キャンプ・スカルバレー」で働いてるらしい。
人助けだと思って頼むぜ、なぁオイ。




ウィルトスィス甲冑長 ： あら、冒険者さん？　私に何か御用かしら？
……これは、ママンからのお手紙！　あ、ありがとうございました……さっそく読んでみます！
……。……仕送りをしろですって？　たまに手紙をよこせばこれなの！？
はぁ、何もかも、貧乏が悪いの？　まったく、心がすさむわ……。いっそのこと、縁切っちゃおうかしら。

# ギルドリーヴ開放「エールポート」

オルウェン ： 仕事をお探しですか？　私はオルウェン。冒険者ギルドの一員です。
こちらでは、魔物討伐や物資の調達など「エールポート」周辺から寄せられた依頼をご紹介しております。
とはいえ、依頼には危険を伴うものも多くあります。あなたに本格的にお仕事をお願いする前に、実力を確認させてください。
私が取り扱っている依頼をひとつお見せします。まずは、このリーヴをこなしてください。
ありがとうございます。依頼主のメメルンは「手まねき」してあげれば誘導することができますよ。よろしくお願いします。
準備が整いましたら、ギルドリーヴを開始してください。依頼の遂行、よろしくお願いします。

オルウェン ： 依頼したリーヴを達成していただけたようですね。では、報酬をお受け取りください。
あなたの働きぶり、素晴らしいものでした。これなら、安心して仕事をお任せできそうです。
ここ、エールポートは交易の要所でもあります。お仕事は沢山ありますから、どんどんこなしてください！

# 迷惑な巣の掃除

ファルクブリダ中甲佐 ： せっかく、このキャンプ・スカルバレーまで来たんだ。仕事のひとつでも任せるとしよう。
最近、この周辺に住み着いた「ドードー」が、巣を作って困っているのだ。「ドードーの巣」を速やかに撤去してもらいたい。

ファルクブリダ中甲佐 ： ……もう終わったのか。やはり冒険者は、仕事の迅速さが一番だな。
このキャンプ・スカルバレーは、もともとは、北方のオ・ゴモロ山に棲む蛮族……
コボルド族の動きを警戒するために作られた拠点なのだ。
その名は、南下するコボルド族に警告するため、討ち取ったコボルド族の頭骨を谷間に並べていたことに由来する。
そうまでして、この地を守ったのは入植者のためさ。だが、今や彼らが飼っていたドードーが野生化し、
この始末なんだよ……卵は美味いがな。

# サハギン族と戦う術

ウィルトスィス甲冑長 ： 武器甲冑よし……硝石と糧秣（りょうまつ）よし、っと。あら？　薬品が不足してるわね……。
冒険者さん、ちょうどいいところに。備品の「ペリカンの毒液」を補給したいのです。
「ペリカンの毒液」は、周辺に生息している、「ロズリトペリカン」から入手できます。お手数ですが、お願いできますか？

ウィルトスィス甲冑長 ： 冒険者さん、おかえりなさい。お願いした品は集まりましたか？
……そうです、これこれ！　ありがとうございました。
現在、このキャンプ・スカルバレーは、西のハーフストーン周辺に進出してきた、サハギン族と交戦状態にあります。
このペリカンの毒液は、サハギン族を殺傷するのに、とても効果的な毒なんです。
鏃に塗れば、経験の浅い兵でも対等に戦うことができます。
ハーフストーン周辺には以前、入植地がありました。それが、蛮神「リヴァイアサン」の活動で被害を受け、
サハギン族が攻め入ったことで滅亡してしまったのです。
いつの日か、かの地を取り戻すために、私たちは戦い続けているのですよ。

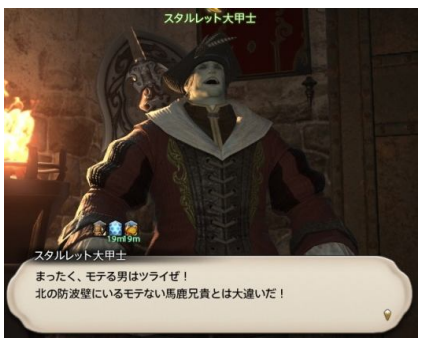
# 防波壁の兄弟

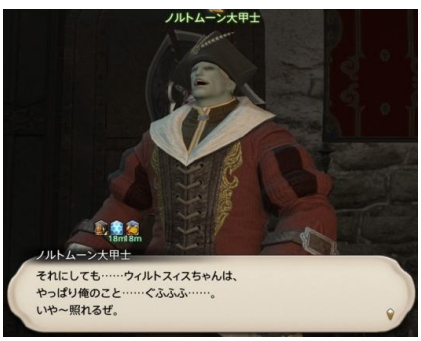
ウィルトスィス甲冑長 ： 「キャンプ・スカルバレー」には、この本部を中心に、南北に並ぶ隘路に「防波壁」が築かれています。
この壁でもって、仇敵サハギン族を水際で防いでいるのです。
南北防波壁の隊長に、この「ローランドワイン」を、届けてくださいませんか？
兵站管理担当官からの、ささやかな振る舞い酒です。
まずは南防波壁の防衛隊長、「スタルレット大甲士」のとこへ届けてください。お願いしますね！

スタルレット大甲士 ： 異常なし……っと！　冒険者か、何の用だ？
……ウィルトスィスちゃんからの差し入れだって？　こいつは気が利くじゃねぇか。はは～ん、やっぱ俺に ホの字だな！
まったく、モテる男はツライぜ！　北の防波壁にいるモテない馬鹿兄貴とは大違いだ！
はぁぁ～、ウィルトスィスちゃん……。あの幸薄そうなカンジがたまらないんだよなぁ。

ウィルトスィス甲冑長 ： お帰りなさい！　次は、北防波壁の隊長「ノルトムーン大甲士」へ届けてください。
そうそう、言い忘れてました。スタルレット大甲士とノルトムーン大甲士は実のご兄弟です。
でも、なんだかいつも喧嘩しているんですよね……。

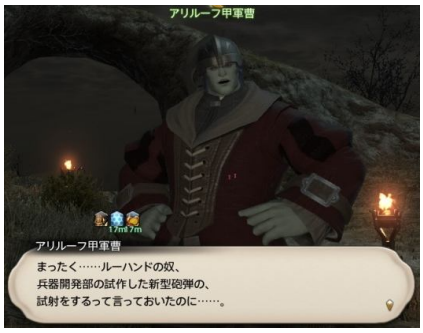
ノルトムーン大甲士 ： 異常なし……っと！　ここは危険だぜ、怪我しないうちに帰りなよ。
……ウィルトスィスちゃんからの差し入れだって？　おお、気が利くねぇ～！
今晩は大好物の浮クラゲの刺身で酒盛りだな！
それにしても……ウィルトスィスちゃんは、やっぱり俺のこと……ぐふふふ……。いや～照れるぜ。
どっかの出来の悪い弟が、横恋慕を仕掛けてきやがるが、俺の鉄拳でブッ飛ばしてやるぜ！
あのコを幸せにするのは……俺だけだぁ！

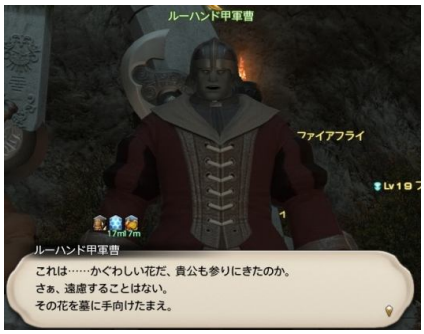


# エールグヘームルに捧ぐ

アリルーフ甲軍曹 ： まったく……ルーハンドの奴、兵器開発部の試作した新型砲弾の、試射をするって言っておいたのに……。
どうせ、また墓参りでもしてるんだろう。……あいつは軍人にしては、ちと感傷的すぎるんだよなぁ。
あんた、ルーハンドの奴を呼んできてもらえないか？
大方、また「エールグヘームルの墓」にでも参ってるんだろう。この「スプリングスターの花」を渡して、
墓に手向ければ、奴の気分も晴れるだろうよ。




ルーハンド甲軍曹 ： ……エールグヘームル……。英霊よ、安らかに眠りたまえ。
さぁ、遠慮することはない。これは……かぐわしい花だ、貴公も参りにきたのか。その花を墓に手向けたまえ。

ルーハンド甲軍曹 ： この辺りには「ハーフストーン入植地」という集落があった。サハギン族の強襲を受けて全滅してしまったがな。
しかし、仲間を逃がすため、鍬を手に戦った農夫がいた。
それが「エールグヘームル」という男だ。以降、彼の墓はサハギン族との戦いで没した者の慰霊碑として、ここにこうして奉られている。
我々「黒渦団」も、彼らの犠牲をけっして無駄にせず、これからも仇敵、サハギン族との戦いに立ち向かう所存だ。
それを忘れないために、墓参りは欠かさないのだよ。

# 祈りは退治の後で

アリルーフ甲軍曹 ： 貴公は冒険者なのであろう？　墓参りのついでに、仕事を頼まれてくれないか？
墓の周辺で、マンティスの卵が孵化してしまったようでな。周辺の「キラーマンティス」を狩ってきてほしいのだ。
そうだな、4匹ほどでいいだろう。よろしく頼む。

アリルーフ甲軍曹 ： ご苦労だったな、冒険者。これで墓の下のエールグヘームルも安らかに眠れるだろう。
さて、そろそろ任務に戻らねばならないな。……そうか、たしか新型砲弾の試射をする予定だった。
急いでアリルーフのもとへ向かわねば。
この報酬はスカルバレーの隊長である、ファルクブリダ中甲佐殿から受け取ってくれたまえ。では達者でな、冒険者よ。

ファルクブリダ中甲佐 ： 冒険者か、どうかしたのか？　……「キラーマンティス」を駆除しただと？
そうか、ご苦労だったな。部下に代わって上官である私が労おう。

# 重要任務はお役御免

ファルクブリダ中甲佐 ： 色々と世話になったな、冒険者。リムサ・ロミンサの黒渦団軍令部から報告があってな。
イエロージャケットのレイナー司令からの伝令だ。内容は「サスタシャ浸食洞」の調査について。
司令は調査に腕利きの冒険者を雇ったらしい。
おや……もしかして、その冒険者というのが貴公なのか？　はははははは！　そういうことか！
いや、縁というものは奇なものだ。
実は我々も、この調査に人員を割いていたのだ。とはいえ、我々の本分はあくまで砦の防衛。
この件からは手を引き、あとは貴公に任せるとしよう。
サスタシャに赴く道中に、私の派遣した者がいるはずだ。彼……「カトグイストル准甲士」に声をかけ、
任務完了を告げてくれるとありがたい。よろしく頼む。

カトグイストル准甲士 ： お前「サスタシャ浸食洞」に行くのか？　やめとけやめとけ！　お前弱そうだし、絶対死ぬぜ？
だって俺、死にそうになったもん。
今はここで作戦会議よ！　ひとり作戦会議！　俺は「黒渦団」のエリートで期待の新人だからして～。
ホンキ出せば余裕なんだけどね～。
……キャンプ・スカルバレーに帰れって？　ファルクブリダ中甲佐が言ってたの？
任務完了ってことは、お役御免ってこと……？
あ、あははは、そうかあ～。わかった、後はまかせたわ！　いや～残念だなぁ、俺のホンキ見せたかったなぁ……。

## 船の墓場に舞う死霊

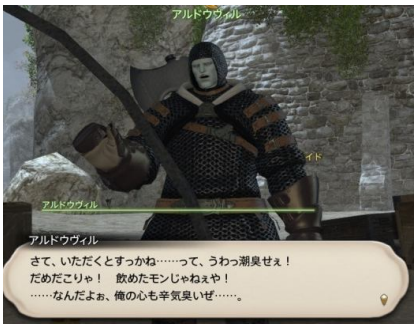
オタン・ヤラタン ： た、助けてくれ！　死霊だ……島に死霊があふれかえってやがる！
あんた冒険者か！？　頼む、死霊を追っ払ってくれ！　これじゃ、灯台を修復するどころの話じゃねぇよ！

オタン・ヤラタン ： 死霊を追っ払ってくれたのか？　やれやれ、一安心だぜ、ありがとうな。
……近頃は座礁する船も後を絶たないし、船員は行方不明になっちまうし、まったく、なんでこんなことになっちまったんだ。
以前はノンビリとした、いい島だったのによ。大灯台はブッ壊れちまうし、踏んだり蹴ったりだぜ……。

## 難破船の宝物

アルドウヴィル ： あ～ちくしょう、酒が切れちまった……ヒック。……おや、目の前に冒険者が見えるぞ？
しかも暇そうで、この島みたいに辛気臭い冒険者だ。
向こうの「船の墓場」には、海流の影響で、海を漂っていた難破船の残骸が打ち揚げられるんだ。
大昔の船が積んでた酒樽がありゃ、中身は年代物ってこった。
……アンタ暇なら、この「瓶」に酒を入れてきてくれよ。あそこは死霊も酒を飲みに来るっていうほど、
いい酒樽が転がってるって話だからよ……ヒック。

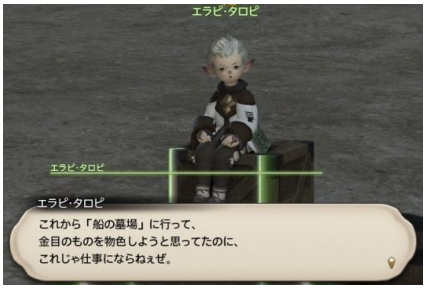
アルドウヴィル ： 死霊が怖くて、船上荒らしがやってられるか～ってんだ！　……ヒック！
……おうおう、タップリ入ってるじゃねぇか。世話をかけたな、ありがとよぉ！
座礁した船の中には、東州や南方大陸と取引するために、お宝をわんさか積んだ船もあるって話だが、
今の俺には、この酒がお宝さ。
さて、いただくとすっかね……って、うわっ潮臭せぇ！　だめだこりゃ！　飲めたモンじゃねぇや！
……なんだよぉ、俺の心も辛気臭いぜ……。



# 死霊と香辛料

エラピ・タロピ ： まいったぜ、幽霊騒ぎに便乗して、小銭稼ぎのつもりで島にやってきたんだが……。
……まさか、幽霊の正体がマジもんの死霊だったなんてよ。
これから「船の墓場」に行って、金目のものを物色しようと思ってたのに、これじゃ仕事にならねぇぜ。
死霊がどっかに行くまで、腹ごしらえでもして時間を潰そうかと思ったんだが……　魚のスープってのは、なかなか臭みがとれねぇな。
そうだ、確か漂着した船で「東方のスパイス」を見かけたな。あんた、ちょっと持ってきてくれよ。飯ができたらわけてやっからさ。

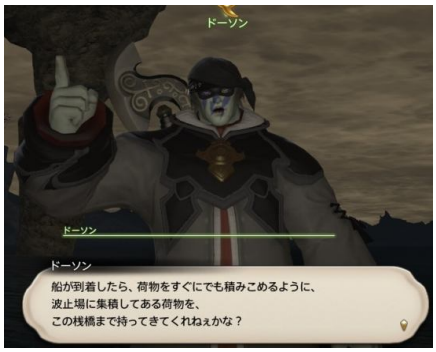
エラピ・タロピ ： おう、待ってたぜ！　早く渡してくれよ、魚が煮崩れちまう。
そうそう、ありがとよ！　こいつを使えば、どんな魚も……　……うえッ、生臭ぇ！！
このスパイス、長年海水に浸かってたんだろうな。完全に腐っちまってやがるぜ。あーあ、せっかく料理した魚がパアだ。
小銭稼ぎのつもりでこの島に来たってのに、食費や何やらで大銭をなくしそうだぜ……。




# クリスタル運搬作戦

ファルクブリダ中甲佐 ： さっそくだが、貴公に頼みたい仕事について説明しよう。間もなく、この先の港町エールポートに、
1隻の輸送船が寄航する予定になっている。
船の荷は「幻影諸島」で採掘されたクリスタル。エールポートで船員の乗り換えと物資補給を行い、
その足で黒渦団の輸送部隊へ引き渡しに向かう予定だ。
しかし、どこからかこの情報が漏れたらしく、サハギン族に嗅ぎつけられたのだ。
もしサハギン族にクリスタルを奪われたら、蛮神「リヴァイアサン」復活への足がかりになってしまう。なんとしても阻止せねばならない。
貴公の任務は船を護衛し、クリスタルを守ることだ。詳細は「エールポート」にいる私の部下、
「ウルツ・コグルツ少甲士」に聞いてくれたまえ。

ウルツ・コグルツ少甲士 ： おお、君が「暁」から派遣された冒険者か！　……船の到着には、まだ少しかかるようだ。
サハギン族に攻撃の隙を与えぬよう、船が到着次第、速やかに荷造りを完了したい。桟橋に行って積荷の整理を手伝ってくれないか。




ドーソン ： ……アンタ、何者だ？　んー、護衛に雇われた冒険者だって？　あ～あ～そうだったそうだった、忘れてたぜ、がはは……。
船が到着したら、荷物をすぐにでも積みこめるように、波止場に集積してある荷物を、この桟橋まで持ってきてくれねぇかな？

ドーソン ： ありがとよ……っと、自己紹介が遅れたな。俺はドーソン、税関公社のしがない小役人さ。
今回のクリスタル運搬の現場主任ってとこだな。
こっちの準備は万事、整ったぜ。あとは船を待つだけだ。「黒渦団」のお偉いさんに報告してきな。

ウルツ・コグルツ少甲士 ： ご苦労さん、助かったよ！　船が来たらすぐに出港するから、君も今のうちに準備を整えておきなよ。

# エールポートの事件

ルツ・コグルツ少甲士 ： どうやら、輸送船が到着したらしいぞ。君にはしっかりとクリスタルを守ってもらわないとな！
よし、桟橋に行って、船に乗りこむんだ！

ドーソン ： よう、出港準備完了だ！　早く乗りこみな！

うろたえた商人 ： たっ……た、大変だッ！！　エールポートの前に海賊団「海蛇の舌」が！

ドーソン ： 「海蛇の舌」だって！？　サハギン族とツルんでるバカどもじゃねぇか！　ちくしょう、なんでこんなときに……！

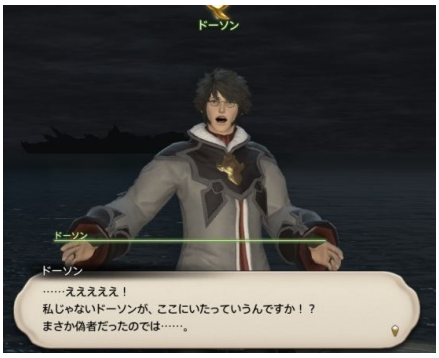
うろたえた商人 ： 命からがら積荷を置いて逃げてきたんだ！　まだ外にいるはずだ！　頼む、なんとかしてくれ！

ドーソン ： まさか積荷を餌に、俺たちをおびき寄せようって腹か？　……冒険者さん、悪いが置き去りにされた積荷を探して
「海蛇の舌」を討伐してきてくれ！
俺はここの積荷が、奴らの手に渡らないよう見張ってる。船はアンタが帰ってくるまで、出港見合わせだ！
早く行きな、待ってるぜっ！

動揺した船乗り ： 考えてみりゃ「ドーソン」って……　ヒューラン族の名前だよな……。あいつはルガディン族……おかしいと思ったぜ……。

手傷を負った二等甲兵 ： ……うう、痛てぇ……。あの「ドーソンに成りすましていた男」……　恐ろしい斧の使い手だ……タダモノじゃねぇ……。
くうッ……船が……　船が、奪われちまった……。

ドーソン ： ここ、これはいったい……！　貴方は「暁」の冒険者さんですね？　私はドーソン、メルヴァン税関公社から派遣された者です。
……えええええ！　私じゃないドーソンが、ここにいたっていうんですか！？　まさか偽者だったのでは……。
ということは……し、しまった、船を奪われた！？　マズい、マズいぞ、サイアクだ……。
至急、ファルクブリダ隊長に報告してきてください！




ファルクブリダ中甲佐 ： 話は聞いた、奴らの策略に嵌ってしまったようだ。海上での活動を得意とする奴らが、まさか陸上で船を略奪するとは……。
これは海賊団「海蛇の舌」の仕業だろう。目撃者の情報によれば、ドーソンに成りすましていた男は、
海賊「ドリスナグル」のようなのだ。
奴らのアジト「海蛇の巣穴」を仕切る頭目ドリスナグルは、賊だてらに、かなり頭の切れる男だと聞く。
しかし、相手がサハギン族だけだと思い油断した。まさか「海蛇の舌」が一枚噛んでいたとはな……。

# 策士ドリスナグル

ウ・ジュガル少甲士 ： 海賊「ドリスナグル」は、前科64犯の凶悪犯……。海賊団「海蛇の舌」のアジトである、
「海蛇の巣穴」を取り仕切る奴らの幹部なのです。
このまま奴らの好きなように動かれては、サハギン族の活動も活発になり、蛮神「リヴァイアサン」を神降ろしされる可能性も……。
ドリスナグルは、恐ろしく頭がキレる策士であり、斧の使い手と聞きます……。
……あの男が生きているかぎり、我々の勝利は難しい。
どうか貴女のおカで「ドリスナグル」を倒し、「海蛇の舌」を弱体化していただけませんか！

ウ・ジュガル少甲士 ： おかえりなさい、無事でよかった！　海賊「ドリスナグル」を倒すなんて……。
いえ、貴女ならやってくださると信じていました。
憧れちゃいます……お姉さまぁ……。

# 突入！海蛇の巣穴

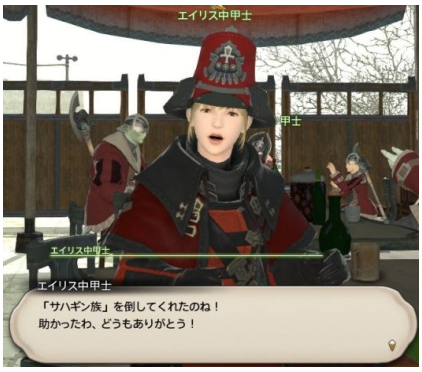
アーツァトラッハー等甲兵 ： 「海蛇の舌」は、サハギン族と手を結び、蛮神「リヴァイアサン」の信仰を受け入れた海賊団。
リムサ・ロミンサの海賊の風上にもおけぬ奴らだ！
奴らを弱体化させるためには、頭数を少しでも減らす必要がある。海賊団「海蛇の舌」の海賊を5人、倒してきてくれないか！

アーツァトラッハー等甲兵 ： 「海蛇の舌」の海賊を倒してくれたのだな！　これで奴らも少しはおとなしくなるだろう。
よくやってくれた、感謝するぞ！

# サハギン族は風に囁く

エイリス中甲士 ： 南北にある防波壁の向こうは「サハギン軍陣営」よ。サハギン族は、あの拠点を足がかりにして、この防波壁を攻略しようとしているの。
奴らの出鼻をくじくためにも、撹乱しなくちゃ！　「サハギン族」を4体ほど討伐して、連中の動きを阻害してちょうだい！

エイリス中甲士 ： 「サハギン族」を倒してくれたのね！　助かったわ、どうもありがとう！
……実は私、魚が大嫌いなの。あのピカピカでヌルヌルした鱗を見ると、ゾッとするわ。
サハギン族なんて……見るだけで鳥肌が立つのよ！




# 兄弟仲良くケンカしな

エイリス中甲士 ： このキャンプ・スカルバレーでは、南北ふたつの防波壁の防衛指揮を行っているの。防波壁を同時に守るためには連携が大切よ。
でも、ふたつの防波壁の防衛隊長をしている兄弟は、いつもケンカばかりしている犬猿の仲なのよねぇ……。
南北の防波壁に補給物資を届けてくれるかしら。北防波壁の隊長は「ノルトムーン大甲士」で、
南防波壁の隊長は「スタルレット大甲士」よ。
届けてもらう「黒渦団の軍用食」は、まったく同量にしてあるわ。こうしないとケンカになるのよね……。

ノルトムーン大甲士 ： 俺が、ノルトムーン大甲士だ。冒険者が何か用か？
……おお、物資の配達か、ご苦労さん！　どれどれ……んん？　弟のほうが多いんじゃねえか？　参謀の奴、いつもヤツを贔屓しやがって！

スタルレット大甲士 ： 俺が、スタルレット大甲士だ。冒険者が何か用か？
おお、物資の配達か、ご苦労さん！　どれどれ……また塩漬けの魚かよ！　……おい、兄貴のとこは新鮮な魚、ってこたねぇだろうな？

エイリス中甲士 ： 配達ご苦労様でした。あの兄弟、ホントに仲悪かったでしょ？　まったく、ふたつの防波壁を束ねる作戦参謀として頭が痛いわ。
でもあれで、いざ敵から防波壁を守るってときには、お互い連携して防衛できるんだから不思議よねぇ。
……ううん、兄弟って案外そういうものなのかもね。

# 防波壁陽動作戦

エイリス中甲士 ： ねぇ、冒険者さん。我々「黒渦団」の立てた作戦に、手を貸してくれないかしら。
南防波壁を一時的に開放し、サハギン族の討伐に出ていた分隊を迎え入れたいの。
南防波壁を開放する間、敵の注意をそらすために、反対方向の北防波壁周辺で、サハギン族を討伐してくれないかしら？
作戦の詳細は、北防波壁の防衛隊長、「ノルトムーン大甲士」に聞いてね。よろしく頼むわよ！

ノルトムーン大甲士 ： おお、南防波壁の解放作戦に協力してくれるのか。よし、ではトレンチトゥース・サハギンを2体ほど倒してくれ。
陽動としてはそれで十分だぜ。

エイリス中甲士 ： ご苦労さま、首尾は上々よ！　無事、分隊を迎え入れることができたわ。ご協力、心から感謝します！

# 大好き！クラゲの刺身

ノルトムーン大甲士 ： お前、ちょっと手を貸してくれ！　この辺りに棲む「シーワスプ」を倒して珍味「プリプリの刺身」を、8個用意してほしいんだ。
俺は子どものころから、こいつが大好物でな。北防波壁を守る部下たちにも振舞って、士気をあげてやりたいんだ！

どうだい、プリプリの刺身は手に入ったかい？　まさか、弟のスタルレットに渡したりしてねえだろうな？
ノルトムーン大甲士 ： なかなか上等な浮クラゲじゃないか。ありがとうよ！
これで今日はクラゲパーティだ！　士気の高い俺の部下たちを見て、弟のスタルレットが悔しがる姿が目に浮かぶぜ！

# 大嫌い！クラゲの刺身

スタルレット大甲士 ： お前、ちょっと手を貸してくれ！　この辺りに棲む「シーワスプ」を倒して珍味「ブヨブヨの刺身」を、8個用意してほしいんだ。
これがまた、信じられねぇくらいクソ不味い代物でな。でも、何故か兄貴は大好物らしいんだ。
まったく舌が馬鹿になっちまってるのかね。
でも、あいつがウホウホ喜んで、浮クラゲを食ってる姿を想像すると、無性に腹が立ってくる！
奴より先に、浮クラゲを狩りつくしてやるんだ！　イヒヒ。

スタルレット大甲士 ： どうだい、ブヨブヨの刺身は手に入ったかい？　間違っても、ノルトムーン……兄貴に渡すんじゃねえぞ。
おうおう、ずいぶんはりきって捕ってきたなぁ。兄貴の悔しがる姿が目に浮かぶぜ！　ありがとうよ！
……しかし、捕ってきてもらったはいいけど、どうするかな、この不味い浮クラゲ……
よし、南防波壁を守るかわいい部下たちに振舞うか！

# クリスタル破壊命令

ファルクブリダ中甲佐 ： 海賊団「海蛇の舌」にクリスタルを奪われた我々に、残された道はひとつだけだ。
……直接「海蛇の舌」のアジトに侵入するほかあるまい。
奪われたクリスタルは、かなりの量だ。敵のアジトから、のんびりと持って帰るわけにはいかない。
貴重な物だが、現地で爆破するしかないな。
口惜しくはあるが、このまま蛮神「リヴァイアサン」の神降ろしに使われるよりは、はるかにマシだ。
サハギン族にクリスタルが渡る前に爆破する。
我々が陽動を務めよう。その間に、貴公は「海蛇の舌」のアジトへ潜入し、この「手製爆弾」で、奪われたクリスタルを破壊してほしい。
奴らのアジト「海蛇の巣穴」は、南北の防波壁を越え、「サハギン軍陣営」を越えたさらに奥にある。
貴公なら、遂行してくれると信じているぞ。

ファルクブリダ中甲佐 ： おお、よくぞ戻ってきてくれた！　貴公のおかげで、憎きサハギン族の台頭を抑えることができたぞ！
これでしばらくは、蛮神「リヴァイアサン」の召喚はできないはずだ。海賊団「海蛇の舌」の連中も、おとなしくなるだろう。
我々「黒渦団」は、貴公の勇気に最大限の敬意を示す！　「砂の家」に戻り「ラドルフ」殿に報告してくれたまえ。
この度の助力、感謝するぞ！

ラドルフ ： ◇◇◇、戻ったな！　話は聞いたぜ、大活躍だったそうじゃないか。
あんたのおかげで、我々も安心して、こちらの問題に集中できそうだ。ありがとうよ！